

ネットワークづくりと高校生サミット実施上の課題

管理機関

京都府教育委員会

カリキュラム開発拠点校

京都府立鳥羽高等学校



発表の要点

1 京都府WWL高校生サミットの概要

2 ネットワークづくり(ALネットワーク京都の形成)

既存のつながりや地域の教育資源を活用

3 他の取組とのつながり

参加者の成長を促し、生徒が自己の成長を認知できる仕組み

4 管理機関と拠点校等の役割分担

事前準備・当日運営の工夫

1-1 京都府WWL高校生サミットの概要

「『豊かさ』の価値の再創造による持続的な未来社会の創出」に向けて、少人数のグループで、以下のいずれか1つのテーマについて、対応するSDGsの目標を踏まえながら、私たちにできることを**日本語**または**英語**で議論し、グループでまとめた解決策を発表し、交流する。

テーマⅠ

「文化遺産の戦略的活用による活力ある未来社会の創出」

- ・ 伝統・文化とともに生き生きと暮らせる未来社会の実現方法を考える。

テーマⅡ

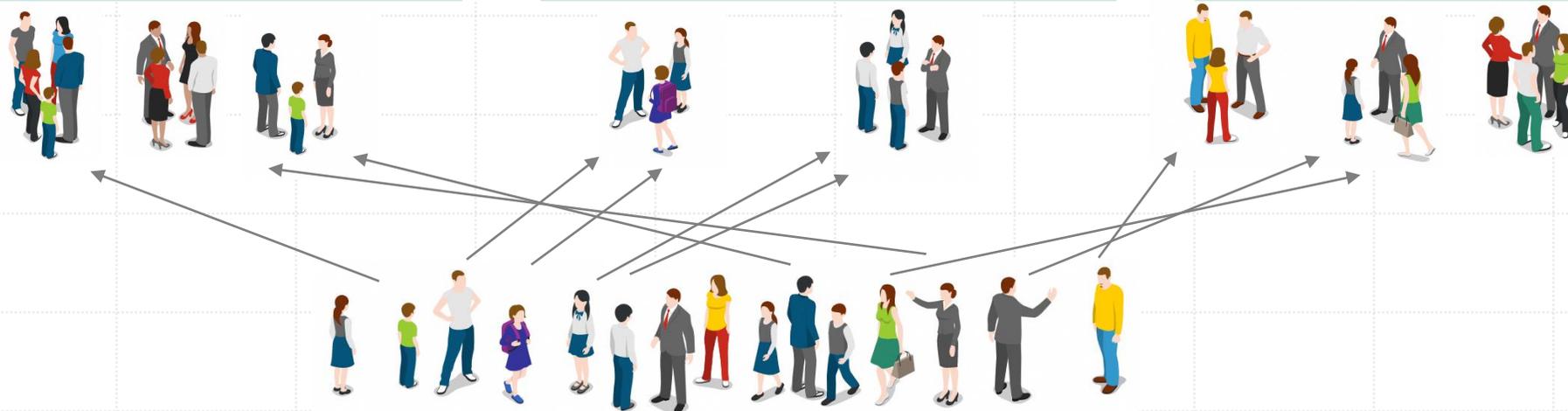
「科学技術と自然が調和する豊かな未来社会の創出」

- ・ 人々が自然とともに持続的に共生できる未来社会の実現方法を考える。

テーマⅢ

「多文化共生による平和で安心な未来社会の創出」

- ・ 地球のあらゆる人々が平和な環境で安心して生活できる未来社会の実現方法を考える。



1-2 SGHの課題解決

<SGH>

鳥羽グローバル・サミット(対面形式で実施)

課題: **時間的・地理的・経済的**制約があった。

(移動にかかる時間や経済的負担のため、参加者数・実施規模が限定的)



<WWL>

京都府WWL高校生サミット(**オンライン**で実施)

1-3 段階的な参加者数の拡大

令和2年(初年度)

参加者数:日本語40名、英語5名(計45名)

参加校:6校

鳥羽高校、福知山高校、洛北高校、秋田南高校、九里学園高校、
那覇国際高校、留学生(京都大学大学院)

英語グループの試行

令和3年(第2年次)

参加者数:日本語40名、英語36名(計76名)

参加校:11校

鳥羽高校、福知山高校、洛北高校、秋田南高校、九里学園高校、
那覇国際高校、嵯峨野高校、洛西高校、西乙訓高校、東宇治高校、
峰山高校、留学生(京都府名誉友好大使、関西大学、京都外国語
大学)

・府立高校の募集範囲を拡大
・英語グループの本格実施

2 ネットワークづくり(ALネットワーク京都の形成)

■SGH校間のつながり

秋田県立秋田南高校、九里学園高校、千葉県立成田国際高校、
沖縄県立那覇国際高校

■国際交流・学校訪問受入からのつながり

ハンヨン高校(韓国)、ヌベール高校(フランス)、西安交通大学附属中学(中国)等

■行政機関(京都府国際課等)とのつながり

京都府名誉友好大使、きょうと留学生ハウス

■京都府教育委員会グローバルネットワーク京都10校

■管理機関とのつながり

ブリティッシュコロンビア大学(UBC・カナダ)

3 他の取組とのつながり

育成する6つの
資質・能力

俯瞰力
協働力
科学的思考力
価値創造力
デザイン力
突破力

京都府WWL高校生サミット

- ICTの利用による**時間的・地理的・経済的**制約を超えた協働学習
- AL (アドバンスド・ラーニング) ネットワーク京都の活用
- 「京の智」「日本の智」を集約し、「地球の智」へ

在籍校の異なる府立高校生が複数の大学教員によるリレー講義を受け、大学初級レベルの研究スキルを学ぶ取組。
高校の単位として認定。

スマートAP

UBC学生交流

サミットの英語ディスカッション部門の参加者が、ブリティッシュコロンビア大学 (UBC・カナダ) の学生とサミットのテーマで意見交流

4-1 管理機関における事前準備と当日運営の工夫

日本語・英語グループ共通の課題と対応

■ 参加校・参加者との目線合わせが困難

- ・事前学習用、サミット当日用のワークシート作成
- ・事前学習、グループ内のディスカッションのフローを明確化

■ 18部屋のブレイクアウトルームの管理が不安

- ・事業協働機関の活用
- ・NTT西日本京都支店の技術サポート

英語グループ固有の課題

■ 留学生（英語グループのファシリテーター）の募集が困難

- ・既存のネットワークや地域の教育資源を活用
- ・京都府名誉友好大使に協力依頼

■ 留学生の接続不良

- ・英語サポートスタッフを準備し、代行

■ 交流のある海外の高校の参加が困難

- ・断念（時差のため） → 継続して連携先を調整

4-2 拠点校等における事前準備と当日運営の工夫

■ WEB会議の経験がない生徒の対応

- ・ZOOMの操作の習得
- ・WEBミーティングの特性理解
- ・会話のタイミング
- ・ファシリテートの役割

■ サミット当日の接続不良等のトラブル

- ・機器、ネットワークの接続サポート
- ・参加者のBluetooth機器の接続補助
- ・通信遮断になった参加者のサポート

■ 事前学習の取組状況の確認

- ・事前学習内容の共有
- ・相互評価を行いより深い事前学習を促進
- ・英語科教諭による発表指導

■ PC・タブレットの不所持者の対応

- ・参加者を学校の大教室に集めて参加（イヤホンマイクでハウリング対処するも、周りの話し声でうるさくなった）